

戦評用紙

大会名	平成29年度藤井杯高野杯山形県高等学校バスケットボール選手権大会
-----	----------------------------------

日時	2017年4月23日 14:25 ~	区分	山形県バスケットボール協会
----	--------------------	----	---------------

チームA				チームB
日本大学山形				羽黒
65	14	1Q	23	102
	27	2Q	31	
	12	3Q	26	
	12	4Q	22	
		延長		

【戦評】

県新人大会と同じ組み合わせになった男子の決勝は、白のユニフォーム日本大学山形高校と青のユニフォーム羽黒高校の対戦となった。白は#5・6・7・8・10、青は#4・5・10・12・13がスターティングメンバー。両チームともハーフコートのマンツーマンディフェンスを敷く。先制点は白、#8のドライブから得点する。その後白はミドルシュートから得点をする。一方青は#10が攻撃の中心となりオフェンスを組み立てる。#4・10が連続で3Pシュートを決める。5分、#10が2本目の3Pシュートを決めたところで白が1回目のタイムアウト。白6-13青。タイムアウト後は一進一退の攻防。白は#7・10、青は#5・10がロングシュートを決める。第1ピリオドは白14-23青。

第2ピリオド、白は#7がドライブからバスケットカウントを沈めリズム作る。それに対し青は#4・5が効果的にロングシュートを決めていき、点差を詰まらせない。4分、#4が連続で3Pシュートを決め、白22-32青となったところで前半2回目のタイムアウト。ここで青はディフェンスを2-3ゾーンに変える。白はオールコートでプレッシャーをかける。青のオフェンスは#10を中心に組み立てられる。ドライブからの合わせやアウトサイドシュートなどを効果的に決め点数を重ねていく。一方白は#7・9が3Pシュートを決め食らいついでいく。8分、青#4がミスから速攻をゆるし、たまたまファールをしてしまう。それがアンスポーツマンライクファールになり、白に流れが行きかけるが、青は厳しいディフェンスから立て直す。最後は青#5がドライブからブザービターを決め白41-54青で第2ピリオドが終了する。

後半、白はハーフコートのマンツーマン、青は2-3のゾーンディフェンス。白のアウトサイドが落ちる一方、青は#10のドライブ、#12のインサイドなどで得点をかさねる。2分、白が後半1回目のタイムアウト。白41-58青。しかし青の勢いを止めることができない。#4の3Pシュートや#7・12がリバウンドからのシュートなどで点差を広げていく。白はメンバーを入れ替えながら反撃のチャンスを探るが、その差はなかなか縮まらず、徐々にひらいていく。5分白43-67青となったところで後半2回目のタイムアウトを取るが、ペースを握ることができない。青が#10のドライブやそこからの合わせなどで点数をのばす一方で、白はミスが目立つようになってしまう。ピリオド終了間際、#5がバスケットカウントを決め、一矢を報いたが、そこで第3ピリオド終了。白53-80青と、青が27点リードする。

第4ピリオド、白はメンバーをスターティングに戻し反撃を試みるが、青は#10の3Pシュートや#7のインサイドなどで反撃を許さない。白はなんとか点差を詰めようと、アウトサイドシュートを狙っていくがなかなか決まらない。一方青は、#4のアウトサイドや#10のドライブから合わせなどで得点していく。インサイド、アウトサイドともに優位に試合を進めた青、羽黒高校が最後までペースを握り続け、勝利を収めた。

戦評者

神位 裕介